

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394200170		
法人名	医療法人共和会		
事業所名	認知症対応型グループホーム 南天(Aユニット)		
所在地	愛知県大府市梶田町二丁目70番地		
自己評価作成日	令和6年1月10日	評価結果市町村受理日	令和6年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=2394200170-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2		
訪問調査日	令和6年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりの認知症の症状や病態を理解し尊厳と権利を尊重しながらご本人主体のケアを行っています。また医療職とも連携を図りながら病状管理を行い、早期の対応を行っています。食事については法人一体となった栄養管理のもと、美味しくバランスのとれた食事の提供を行っています。看取り介護では、積極的な処置を希望せず自然な形で終末を希望される方に対しご家族とも綿密に相談を行いながらできる限りご本人の希望に沿った苦痛の少ないあたたかな最期を迎えられるよう支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

共和病院を拠点に精神科を含むクリニックと介護事業所を展開する法人に支えられ、安心安全な取組に至っている事業所です。例えば看取りにおいては、医師からの指示書を受けた医療連携のもと法人看護師の訪問があります。更に法人主催の認知症カフェを筆頭に認知症への理解普及の取組も励行され、地域から認められる存在であることは、利用者や家族の安心につながっています。また管理者は「地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク」の全国大会では認知症について登壇し、利用者中心の介護を広く伝えるに及んでいます

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送りごとに理念を唱和し実践に努めている	申送り時の唱和を通じ理念の浸透を図っています。法人の方針、事業部の方針、事業所の目標、個人目標と、組織から個へのバトンが的確に渡され、法人全体が一体となって目標に向かう仕組みができており、理念の実践に向けての足固めは十分です	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	電子紙芝居ボランティア等の受入を行ったり、認知症カフェへの定期的な参加の他、地域のお店に買い物に出かけたりして地域との繋がりを確保している。	近くのスーパーマーケットで買い物を楽しんだり、「電子紙芝居」「オカリナ演奏」のボランティアを受入れています。また法人内では毎月認知症カフェが開催されるほか、大府市福祉健康フェアにおいてはブースを設け、地域とのつながりが継続されています	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大府市福祉健康フェア(9月24日開催)にて認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向け発信を行っている。また、管理者は9月16日の「NPO地域共生を支える医療・介護・市民ネットワーク第2回全国の集い」認知症介護実践交流会に参加。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族、包括支援センター職員、民生児童委員参加のもと定期的に開催、意見交流を行いサービス向上に活かしている。	大府市高齢障がい支援課、民生児童委員、地域包括支援センター、各ユニットから利用者家族がメンバーとなり、隔月で開催しています。感染症の影響から、やむを得ず書面開催となる場合は質問書を通じて意見を収受して、運営に役立っています	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	大府市、及び知多北部広域連合と電話やメールを使用して相談を行っている。	地域包括支援センター、大府市認知症初期集中治療チームより情報提供があり、連携のもと地域の困難ケースを受入れたとのエピソードからは、顔を見える関係を築けていること、更には事業所が地域の関係団体、機関から信頼されていることが伝わります	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束適正化委員会と研修を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、過去に施設外に出て戻れなくなった利用者が発生しているため、各利用者ご家族と相談の上、施錠を行っている。	指針を策定し「身体拘束をおこなわないケア」に取り組んでいます。担保の一つとして、外部研修に参加した介護リーダーが内容を職場に持ち帰り、職員間での共有に努めるほか、ハード面では広角IRセンサーによる介護ロボットを導入して、質の高いケアを目指しています	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修の実施と全スタッフ対象の虐待防止チェックリストを実施している。また、虐待防止チームに管理者が参加し、法人内各施設と歩調を合わせ虐待防止に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画に盛り込み職員への周知を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書・パンフレット・1日の過ごし方をお渡しし説明を行うとともに、施設見学を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	満足度調査を実施し事業所にてフィードバックを行っている。今年度は食事満足度調査を実施。	毎月「南天通信」を通じて利用者の様子を家族に届け、またコロナ禍では家族からのZoom面会の希望を実現させています。面会や電話を介して家族の声を聞き、遠方に住む家族にもメール上で受診時の情報共有をおこない、事業所の運営につなげています	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員アンケートを実施し対応策として管理者研修にてフィードバックを行っている。	プリセプター制度、内外の相談窓口が法人において敷かれ、職員を守る体制があり、また職員満足度調査や事業所ミーティングでは職員意見が集約されています。職員は家族の提案に耳を傾ける姿勢を持ち、「認知症マフ」の導入が実現したとの功績もあります	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回会議を行い情報共有を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回行われる会議の他、人事考課等で情報共有を行い計画に反映させている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が愛知県医療法人協会介護研究会に定期的に参加し同業者との意見交換、サービスの向上を図っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に訪問、面接を行い要望や入居後の不安について相談を行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に訪問、面接、又見学をしていただきながら要望やわからないことについて説明・相談を行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にアセスメントを実施、。共和病院と連携し、主治医に相談しながら入居時のサービスを検討している。入居時にサービス担当者会議にて情報共有を行い、必要であればリハビリ等のサービス利用について案内をおこなっている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室清掃や食器洗い等できる限りやれることは一緒にやっていたきながら自立支援を図っている。入居者どうしの助け合いについてもクリエイション等を通じて交流が図れるように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限を設けず、レクリエーション等にもご家族とともに参加できるよう促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望に沿って外泊支援や外出支援を行っている	5類に引き下げられたことから面会、外泊を可能とし、家族や親せきのつながりが途絶えることのないよう希望に沿った形で関係継続を実現させています。職員が同行して遠方の法事に参加したり、家族の協力を得て親戚宅へ訪問するといった支援がおこなわれています	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的にテーブル配置を見直しし会話が促進されるように工夫を行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の施設探しについても関わり施設への問合せ等行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントに合わせ意向の確認を行い、ご本人へ直接の意向確認が困難な場合にはご家族を通じて確認を行っている。また、事業所ミーティングを通じてスタッフが感じているニーズも聞き出すようにしている	普段の会話から思いや暮らしの希望を確認しています。会話が困難な場合には家族から好きだったものやコトを聞くなどして、気持ちに寄り添えるように努めています。また「個別支援を大切に」との考えに基づき、発語とその場の状況を介護記録に残しています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時に生活歴を確認し、それに沿ったサービス提供を心がけている。また昔の馴染みの雑誌や持物も持ってきていただくようにご家族に依頼している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを活用し1日の過ごし方について情報共有を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとに短期目標を見直し、スタッフ、ご家族間で課題を共有し計画に反映している	管理者が2ユニットの計画作成担当者となり、本人や家族の希望をもとに医療面、ADLを取り入れて介護計画書を作成しており、担当者欄には薬剤師や鍼灸師、訪問看護師が名を連ねていて、チームケアの実践が覗えます	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録システムを活用し日々の経過記録はもとより送り機能を活用し情報共有を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所ミーティングを通じて状況の変化に合わせてサービス提供のあり方について意見交換を行い業務改善に反映させている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	居宅介護支援事業所が行う事業所ミーティングに管理者が参加し、ケアマネジャーと情報共有を行いながら活用できる地域資源の把握に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意向を尊重し、提携医療機関にこだわらず幅広い医療が適切に受けられるよう支援を行っている	母体病院が主治医です。法人内の内科医師が月1回、精神科医師が月に2回訪問診療をおこなっており、医師間の連携もあり安心です。また看護師の健康管理を目的とした訪問も週1回あり、法人が持つ医療資源をもとに堅固な医療体制を整えています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携訪問看護ステーションより週1回の健康チェックに来所してもらっている他、随時電話相談を行っている。また終末期には特別指示書に基づいた医療保険による訪問看護を導入している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはサマリー等を送付し情報共有に努めている。また入院中に関しても定期的に電話で病状確認を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できるだけ早い段階で主治医に病状説明を依頼し、ご家族に終末期の意向調査を行っている。病状が進行した場合には、ICをこまめに行っていたりできる限り納得できるよう配慮している。医師、看護師、施設で意向の共有を図っている	契約では本件の説明を家族におこなっています。入居後は重度化が見てとれると家族と連絡を取りながら、医療と事業所がチームとなり終末期に向けた方針や取組を検討する仕組みがあり、安心です。昨年度の看取りでは家族が居室に宿泊したケースもあります	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを定期的に見直し、全スタッフで共有している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施している。また法人単位で事業継続計画に取り組んでいる	年に2回の法定訓練をおこない、更には大府市の福祉避難訓練に参加して協力体制を築いています。また事業所内には72時間対応の非常用発電機が設置され、備蓄品は給食業者と契約を結び、法人で一括管理されています	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送り時にスタッフ全員で理念を唱和し人権尊重とプライバシーの確保について確認を行っている。また個別に面接を行う中で、必要な職員にはフィードバックを行っている	母体病院の歴史が伝統となり、権利擁護と尊重が事業所にも浸透しています。理念には尊厳と尊重が鮮明に明記され、また研修や職員会議では係る内容の話し合いがあり、職員は気遣いと思いやりを常に意識して利用者への支援を実践しています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	トイレ誘導やレクリエーション等、必ず希望を確認して意に沿わない行動をできる限りさせないようにしている。また話を伺うように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日等、ご本人の希望を尊重し柔軟に対応し過ごしやすい環境となるよう心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に衣類を入れ替えたり、モーニングケアを実施し身だしなみに気を遣えるように支援を行っている。定期的に訪問理美容に来てもらい希望のカットを行う他、顔そり・眉そりも実施してもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	付け合わせ等は個別に選んでいただきながら購入し提供している。片付けができる方には依頼をしている	管理栄養士の手配のもと、隣接する有料老人ホームやデイサービスと同様の献立表が備わり、様々な食形態にも対応出来ています。また食事アンケートの結果からは天ぷら、鰻ちらしのほか、時節を反映した行事食も提供されています	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表、栄養摂取表に記入し把握を行っている。また心臓病等水分制限が必要方には医師とも相談しながら一日のトータル摂取量を設定し、その設定に沿った支援を行っている。食形態はアセスメントに合わせ、刻み食、ミキサー職等工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔チェックリストを作成し口腔ケアを実施している。定期的に歯科受診し歯科医の指導を受けながら個別に口腔ケアの内容を設定している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄間隔に基づき誘導の時間等設定している	排せつの自立支援を実現すべく所内勉強会をおこない、介助が必要な人には時間誘導をおこない、トイレでの排せつを促進しています。また水分と食事量、排せつの記録を残すことで個々の健康状態を管理したり、ケアの改善にもつなげています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護と相談しながら、食物繊維等を摂る工夫や下剤の工夫を行っている。必要に応じ主治医に相談を行い、下剤等処方の調整を図っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	スケジュールは決めているが、希望に沿って柔軟に変更を行い対応している。また回数もご家族等にも確認しながら増減を行っている	入浴の基本回数は週3回ですが、希望には応えるよう回り、回数を増やしています。また入浴が少しでも快適となるよう、個々に好みの洗髪剤を使っています。体調により入浴ができない場合は医師の許可が出るまでは清拭に変更とするなど、臨機に対応しています	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も体力に応じ、休息していただく時間を設けるなど個別に対応を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の居宅療養管理指導を導入し、処方変更時等説明をスタッフが受けられるようにしている。また薬剤情報を個人ファイルに随時的に綴じすぐに確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を参考に嗜好品や楽しみごとや気分転換の方法について個別サービスに反映させている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に敷地内散歩を行う等戸外に出られるよう工夫を行っている。福祉有償運送を利用し、ショッピングモールへの買い物、また初詣等公用車を利用した外出の機会を作っている。また主治医に相談しながらご家族のもとへの外泊や外出を行っている	外泊や外出は家族、本人の要望に応じています。心身の活性化につながるよう、散歩は天気や気分に応じて励行され、季節を感じる貴重な機会となっています。希望があればマイクロバスでショッピングセンターへ出掛け、買い物を楽しめる支援もおこなっています	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物レク時にはできる限りお金のやり取りをご本人に行ってもらおうにしている。また希望により、少額ではあるがご自身にてお財布と現金を持っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所の電話に出て頂いたり、個別に携帯電話を持てる方には持っていたいている。年賀状等も希望の方には出せるよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に入居者と作成した季節の画を貼って季節感を出している。室温調整をこまめに行っている。	母体病院の専門性から、利用者は精神疾患の利用者が多くを占めています。そこで1階は精神疾患の人、2階は身体に不自由な面がある利用者を対象とし、状態に応じてフロアを分けることで、相互の影響を最小限に押さえています	大半が日中リビングで過ごしている状況を踏まえ、穏やかに過ごせる雰囲気づくりが望まれます。心地よいソファや絵画、花などで装飾された空間を期待します
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の配置を工夫し、しゃべりやすい雰囲気となるよう心掛がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室レイアウトを工夫し、以前ご自宅で使用した者や思い出の品を持ち込んでもらっている。入居者によってテレビや冷蔵庫を持ち込んでもらい居心地の良い空間作りを心がけている	自宅で愛用していた家具や思い出の品を持ち込み、かつての生活が再現されていて、リラックスできる環境にあります。一方、車いすの動線を確保するために家具を動かすこともあり、利用者本人の状態や気持ちに沿って臨機にレイアウトを調整しています	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレがわかるように表示を工夫したり、必要な方にはセンサーマットを使用して安全を確保したりしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394200170		
法人名	医療法人共和会		
事業所名	認知症対応型グループホーム 南天(Ｂユニット)		
所在地	愛知県大府市梶田町二丁目70番地		
自己評価作成日	令和6年1月10日	評価結果市町村受理日	令和6年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jiyosyoCd=2394200170-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2		
訪問調査日	令和6年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりの認知症の症状や病態を理解し尊厳と権利を尊重しながらご本人主体のケアを行っています。また医療職とも連携を図りながら病状管理を行い、早期の対応を行っています。食事については法人一体となった栄養管理のもと、美味しくバランスのとれた食事の提供を行っています。看取り介護では、積極的な処置を希望せず自然な形で終末を希望される方に対しご家族とも綿密に相談を行いながらできる限りご本人の希望に沿った苦痛の少ないあたたかな最期を迎えられるよう支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

共和病院を拠点に精神科を含むクリニックと介護事業所を展開する法人に支えられ、安心安全な取組に至っている事業所です。例えば看取りにおいては、医師からの指示書を受けた医療連携のもと法人看護師の訪問があります。更に法人主催の認知症カフェを筆頭に認知症への理解普及の取組も励行され、地域から認められる存在であることは、利用者や家族の安心につながっています。また管理者は「地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク」の全国大会では認知症について登壇し、利用者中心の介護を広く伝えるに及んでいます

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送りごとに理念を唱和し実践に努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	電子紙芝居ボランティア等の受入を行ったり、認知症カフェへの定期的な参加の他、地域のお店に買い物に出かけたりして地域との繋がりを確保している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大府市福祉健康フェア(9月24日開催)にて認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向け発信を行っている。また、管理者は9月16日の「NPO地域共生を支える医療・介護・市民ネットワーク第2回全国の集い」認知症介護実践交流会に参加。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族、包括支援センター職員、民生児童委員参加のもと定期的に開催、意見交流を行いサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	大府市、及び知多北部広域連合と電話やメールを使用して相談を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束適正化委員会と研修を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、過去に施設外に出て戻れなくなった利用者が発生しているため、各利用者ご家族と相談の上、施錠を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修の実施と全スタッフ対象の虐待防止チェックリストを実施している。また、虐待防止チームに管理者が参加し、法人内各施設と歩調を合わせ虐待防止に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画に盛り込み職員への周知を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書・パンフレット・1日の過ごし方をお渡しし説明を行うとともに、施設見学を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	満足度調査を実施し事業所にてフィードバックを行っている。今年度は食事満足度調査を実施。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員アンケートを実施し対応策として管理者研修にてフィードバックを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回会議を行い情報共有を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回行われる会議の他、人事考課等で情報共有を行い計画に反映させている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が愛知県医療法人協会介護研究会に定期的に参加し同業者との意見交換、サービスの向上を図っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に訪問、面接を行い要望や入居後の不安について相談を行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に訪問、面接、又見学をしていただきながら要望やわからないことについて説明・相談を行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にアセスメントを実施、。共和病院と連携し、主治医に相談しながら入居時のサービスを検討している。入居時にサービス担当者会議にて情報共有を行い、必要であればリハビリ等のサービス利用について案内をおこなっている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室清掃や食器洗い等できる限りやれることは一緒にやっていたりしながら自立支援を図っている。入居者どうしの助け合いについてもクリエイション等を通じて交流が図れるように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限を設けず、レクリエーション等にもご家族とともに参加できるよう促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望に沿って外泊支援や外出支援を行っている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的にテーブル配置を見直しし会話が促進されるように工夫を行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の施設探しについても関わり施設への問合せ等行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントに合わせ意向の確認を行い、ご本人へ直接の意向確認が困難な場合にはご家族を通じて確認を行っている。また、事業所ミーティングを通じてスタッフが感じているニーズも聞き出すようにしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時に生活歴を確認し、それに沿ったサービス提供を心がけている。また昔の馴染みの雑誌や持物も持ってきていただくようにご家族に依頼している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを活用し1日の過ごし方について情報共有を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとに短期目標を見直し、スタッフ、ご家族間で課題を共有し計画に反映している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録システムを活用し日々の経過記録はもとより申送り機能を活用し情報共有を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所ミーティングを通じて状況の変化に合わせたサービス提供のあり方について意見交換を行い業務改善に反映させている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	居宅介護支援事業所が行う事業所ミーティングに管理者が参加し、ケアマネジャーと情報共有を行いながら活用できる地域資源の把握に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意向を尊重し、提携医療機関にこだわらず幅広い医療が適切に受けられるよう支援を行っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携訪問看護ステーションより週1回の健康チェックに来所してもらっている他、随時電話相談を行っている。また終末期には特別指示書に基づいた医療保険による訪問看護を導入している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはサマリー等を送付し情報共有に努めている。また入院中に関しても定期的に電話で病状確認を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できるだけ早い段階で主治医に病状説明を依頼し、ご家族に終末期の意向調査を行っている。病状が進行した場合には、ICをこまめに行っていたりできる限り納得できるよう配慮している。医師、看護師、施設で意向の共有を図っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを定期的に見直し、全スタッフで共有している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施している。また法人単位で事業継続計画に取り組んでいる		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送り時にスタッフ全員で理念を唱和し人権尊重とプライバシーの確保について確認を行っている。また個別に面接を行う中で、必要な職員にはフィードバックを行っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	トイレ誘導やレクリエーション等、必ず希望を確認して意に沿わない行動をできる限りさせないようにしている。また話を伺うように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日等、ご本人の希望を尊重し柔軟に対応し過ごしやすい環境となるよう心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に衣類を入れ替えたり、モーニングケアを実施し身だしなみに気を遣えるように支援を行っている。定期的に訪問理美容に来てもらい希望のカットを行う他、顔そり・眉そりも実施してもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	付け合わせ等は個別に選んでいただきながら購入し提供している。片付けができる方には依頼をしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表、栄養摂取表に記入し把握を行っている。また心臓病等水分制限が必要な方には医師とも相談しながら一日のトータル摂取量を設定し、その設定に沿った支援を行っている。食形態はアセスメントに合わせ、刻み食、ミキサー職等工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔チェックリストを作成し口腔ケアを実施している。定期的に歯科受診し歯科医の指導を受けながら個別に口腔ケアの内容を設定している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄間隔に基づき誘導の時間等設定している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護と相談しながら、食物繊維等を摂る工夫や下剤の工夫を行っている。必要に応じ主治医に相談を行い、下剤等処方調整を図っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	スケジュールは決めているが、希望に沿って柔軟に変更を行い対応している。また回数もご家族等にも確認しながら増減を行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も体力に応じ、休息していただく時間を設けるなど個別に対応を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の居宅療養管理指導を導入し、処方変更時等説明をスタッフが受けられるようにしている。また薬剤情報を個人ファイルに経時的に綴じすぐに確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を参考に嗜好品や楽しみごとや気分転換の方法について個別サービスに反映させている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個別に敷地内散歩を行う等戸外に出られるよう工夫を行っている。福祉有償運送を利用し、ショッピングモールへの買い物、また初詣等公用車を利用した外出の機会を作っている。また主治医に相談しながらご家族のもとへの外泊や外出を行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物レク時にはできる限りお金のやり取りをご本人に行ってもらっている。また希望により、少額ではあるがご自身にてお財布と現金を持っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所の電話に出て頂いたり、個別に携帯電話を持てる方には持っていたている。年賀状等も希望の方には出せるよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に入居者と作成した季節の画を貼って季節感を出している。室温調整をこまめに行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の配置を工夫し、しゃべりやすい雰囲気となるよう心掛がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室レイアウトを工夫し、以前ご自宅で使用した者や思い出の品を持ち込んでもらっている。入居者によってテレビや冷蔵庫を持ち込んでもらい居心地の良い空間作りを心がけている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレがわかるように表示を工夫したり、必要な方にはセンサーマットを使用して安全を確保したりしている		